

## ショートムービーパワー

埼玉県立所沢高等学校 西澤廣人

### 0 授業のデザイン

- 1) 活動を計画する上で、意識したいこと
  - ・感覚をみがく。(なんとかなる、ホットに作ってクールに見る)
  - ・問題解決を楽しむ。(身近に関心を持つ、教えあう、グループで取り組む)
  - ・話す、語る、相談する。(伝える相手を意識する、話し合いで考えを深める)
- 2) 内容を見つめるときに、3つの視点で
  - ・技術：ここでつかむ技術は何か？(1つにしぼる、あるいは3つ以内でといたら)
  - ・授業：どう学ぶのか？成長を感じられるか？
  - ・学校&社会：学校や社会とどうつながるか？

### 1 メッセージを伝えるために編集するという活動

- 1) 紙にまとめる →「レイヤー」をつかむ 新聞、ポスター、雑誌の見開き記事
- 2) 映像にまとめる →「タイムライン」をつかむ CM、ニュース、予告編

### 2 映像制作を扱うのは、無理！？→短い作品：ショートムービーならなんとかなるかも 制作上のポイントはポスターやプレゼンテーションのときと共通する部分が多い。

- 1) 何のために作るのか？→目的を設定する  
そのための素材はあるか？こんな感じというのを説明できるサンプルはないか？
- 2) 伝えたいことは何か？→メッセージを意識する  
活動を伝えること・気持ちを伝えること(「誰が誰に?」を明確に。)
- 3) 基本だけ押さえる→細かいことは「サンプル」と「試す」ことでつかむ  
技術面で押さえることは「タイムライン」と「レイヤー」。  
画面切り替えの意味などの説明はしなくても試して→最終的にはシンプルに。  
「サンプル」を見るときに視点を与えることや、他の作品を見ることでつかむ。  
★時間のコントロールが肝心なので、ワークシートと早めの声かけで。  
★まず教員や一部の生徒でチャレンジ→少しだけコツをつかんでおく。
- 4) 発表の場を作る→最終の発表会だけでなく、中間発表を。中間発表後に伸びる！  
グループ作品なら、時間内に全作品を上映することも可能になる。  
校内のイベントの中に発表の場を作ると、学校全体にもプラスになる。

### 3 写真からショートムービーを作る<事例紹介：体育祭紹介CM09, 学校紹介CM02~04>

- 1) 種まきはさりげなく、でも計画的に、日常的に行っておく  
行事のときなどを使って、多くの生徒が見る場面を。素材を準備しておく。
- 2) 写真選びに時間をかける、順番を考えて並び替えて作品を作ってみる  
仲間といっしょに選ぶ時間が、作品に対する思いをふくらませることになる。
- 3) 言葉を選んでいれて、作品として形を作る  
どこにどんな言葉を入れたらいいのかを考える。(写真のタイミングとメッセージ)  
音とどうあわせるかも、高校生がこだわるポイント。
- 4) 作り手が語る場、感動を共有する場を用意する  
中間では悩んでいる部分を投げかけ、本発表では見てほしい部分を語る。

<授業展開 8時間> (所沢高校では「情報A」を3年次に必修で。2時間連続授業。)

6/9 素材選び&体験 6/19 作成 6/25 中間発表 6/30 本発表

#### 4 静止画と動画を合成で組み合わせて作る<事例紹介：WSC08, TNNプロジェクト04>

1) 合成を可能にする道具を手に入れる

- ・リアルタイムで合成するには、アナログのビデオミキサーという選択肢もある。
- ・クロマキー合成ができるアプリケーションを用意。

2) 背景はそれほどしっかりしていなくてもなんとかなる

・スタジオにあるようにぴーんとはって、照明もきちんとあてるのが望ましいが、そうでなくても、そこそこ切り抜くことができる。

・動いているものと動いていないものを区別して切り抜く技術が普及しはじめているので、これを使えば学校内の壁などを使っての合成が可能になる。

3) ビデオカメラが1台しかない!→デジカメと組み合わせる。

<ビデオカメラ1台でニュース番組を作る>

1) 構成：キャスター (以下C) → レポーターA → C → レポーターB → C で、2つの取材。

2) 目的：他の国で日本語を学んでいる中高生に、日本の高校生の生活を紹介する。

3) 本番までの流れ：企画、取材と台本作りに時間をかける。リハーサルで改善。

4) 本番の役割分担：出演者とカメラ+監督も交代で、ブルーバックの前で撮影。

5) 仮設スタジオ環境

ブルーバック：布の端に筒を入れて、つり下げる。足下にシートをひく。

照明：電気スタンド2つをステージにむける。

音：声を同時録音するために、マイクとPAを使って大きくする。

モニタ：カメラのビデオ出力を教室のテレビに接続。

カンペ：台詞で心配な部分は、紙に大きくかいて見せる役も用意。

6) 合成：取材のときに、デジカメでとった写真とレポーターを合成する。

7) ニュース番組化：オープニングとエンディングをつくってつなげる。

#### 5 チャレンジするためのヒント

1) アプリケーションは無料で可能か?

→Win:MovieMakerでも短時間ならけっこういける。

→Mac:iMovieはさっと作るのにむいている。

iPhoto, Garagebandと組み合わせるとかなりのことができる。

2) 利用しているアプリケーション

- ・アドビのプレミアエレメンツ (フォトショップエレメンツとのセットがおすすめ)
- ・デジタルステージのフォトシネマ (正式名は、LiFE with PhotoCinema)
- ・アップルのファイナルカットエクスプレス (iMovieと組み合わせると便利)

3) 静止画を組み合わせる

→プレゼンテーションソフトで文字主体の画面を作って、静止画として書き出す。

手書きを撮影、ペイントソフトで描く、などタイトル機能より独特の味が出る。

4) HD画質か、SD画質か?

→撮影はHDでも、上映や編集の環境は要チェック。今はあまり無理をせずに。

\*ショートムービーはいかがでしたか?ちょっとしたコツが互いの役に。ぜひ情報交換を。